

# 果樹生育情報 7月号

令和5年7月20日  
栗原農業改良普及センター

## 〈りんごの生育状況等〉

表1 生育状況(7月10日調査)

		金成小堤	金成末野	高清水福塚
タテ径	本年(mm)	45.8	52.0	48.4
	平年(mm)	44.6	46.4	45.8
	平年比(%)	102.8	112.1	105.6
ヨコ径	本年(mm)	51.6	56.6	54.0
	平年(mm)	48.8	50.6	48.5
	平年比(%)	105.7	111.9	111.4

7月10日現在のりんご(ふじ)の果実肥大は、105~111%(ヨコ径)と平年を上回っています。

## 〈病害虫発生状況〉

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第6号(令和5年7月10日発表)

病害虫名	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	やや多い	(1) 定点調査ほ(品種「ふじ」)の新梢における発病葉率は平年より高く推移している。( /+) (2) 巡回調査の結果、徒長枝及び新梢における発生地点率は平年より高く、広域で発生がみられた。発病葉率も、徒長枝及び新梢ともに平年より高かった。( /+) (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±~+)
褐斑病	やや多い	(1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。( /+) (2) 気温 20℃前後で多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /-)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /±~+)
ハダニ類	平年並み	(1) 巡回調査の結果、1葉当たりの寄生頭数はナミハダニは平年並、リンゴハダニは平年より多かった。( /±~+) (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量は平年並か多いと予報されている。( /-~±)

病害虫名	発生量	予報の根拠
アブラムシ類	平年並み	(1)巡回調査の結果、寄生新梢率は平年よりやや低かった。( / - ) (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / +)、降水量は平年並か多いと予報されている。( / - ~ ±)
キンモンホソガ	やや多い	(1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害葉率は平年よりやや高かった。( / +) (2)20~25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / +)

管内では目立った病害虫は確認されていませんが、仙台管区気象台による向こう1か月(7月22日から8月21日)の天候予報によると、『暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、東北太平洋側では、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。また、天気は数日の周期で変わるでしょう。』との予報が出ています。

病害虫の好適発生条件である「高温多湿」が続いていますので、病害虫発生状況を参考にしながら各自園地を観察し、適時適切な防除を心がけましょう。また、散布間隔を開けないよう防除を徹底しましょう。

なお、ハダニの好適発生条件となりますので、園地を常に観察し、必ず多発する前に防除をするよう心がけましょう。草刈り及びハダニ剤の散布を予定している場合には、草刈り後にハダニ剤を散布するようにしましょう。

### 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう

## 農作業中の熱中症を予防しましょう